



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

障害児の在宅ケアにおける家族への支援体制強化に関する調査研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 桑田, 弘美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/733

はしがき

本冊子は平成 14 年度～16 年度の文部科学省科学研究費による基盤研究 (C) (2) 課題番号 14572273「障害児の在宅ケアにおける家族への支援体制強化に関する調査研究」の研究成果報告書である。

以前から在宅療養をしている子どもを持つ母親と話をしていると、24 時間休みの無いケアは母親の精神的な疲れを引き起こし、そのために事故を起こしやすくなることや、本来ならできる援助ができなくなることなど、子どもとその家族の生活の質が低下する可能性があると思われる話を聞くことが多い。母親がその状況を受け入れ孤軍奮闘していても、社会的な支援が積極的になされるという印象はない。重い負担を背負う家族（特に母親）を支援する体制は整えられているとは言えない現状である。現在、将来的に母親への支援体制の確立をめざした研究を進めている段階であるが、まず現状把握を行いたいと考えた。実際に在宅ケアを行う家族にインタビューを行い、その結果を障害児の在宅ケアの実態としてまとめた。今後の在宅で療養するための家族への支援体制強化をはかる礎としたい。

研究方法が家族へのインタビューを行うというものであったため、子どもやその家族の方には時間的な負担を強いてしまうことになるが、協力していただいた家族の方は、子どもの様子について説明をしながら、こちらの質問にしっかりと答えてくださった。

ご家族の皆様には、多大なご協力をしていただき、深く感謝を致します。また、研究に協力していただいた医師や看護師、施設や団体のスタッフの方にも深く感謝の意を表します。